

「だれもが楽しめる スポーツを提案したい」



かとう のぶ お
加藤 信夫 さん

昭和16年生まれ、63歳。
石狩市体育指導委員委員長を務めるかたわら、今年から緑苑台パークゴルフ場の管理人も担う。「スポーツを通してみなさんから元気をもらっています」

地域の人たちに実技指導や助言を行う「体育指導委員」は、スポーツに対して深い関心や理解、能力を持った者の中から市の教育委員会が選出して委嘱すると定められている。

石狩市体育指導委員協議会が発足したのは昭和54年。現在は、40代から60代まで男女20人の体育指導委員が、総務・研修・広報・女性の4つの専門部会に分かれて多彩な活動を続けて

いる。

平成10年から体育指導委員委員長を務めるのは指導委員歴28年のベテラン、加藤信夫さん。町内会の体育部長を皮切りに、地元で野球同好会や南線ファイターズ野球少年団を結成するなど、まちのスポーツ活動に大いに貢献してきた。

「私は幼少のころから野球や運動が大好きでした。ただ、スポーツは一部の人たちだけ

が楽しむものであってはいけないと考えています。子どもや高齢者などスポーツに親しむ機会が少ない人たちがもっと気軽に楽しめるように工夫することも、私たち指導員の役目です」と加藤さん。長い活動を通じて、まちの少子高齢化の波をひしと実感していた加藤さんや指導委員は、「今こそ、スポーツのあり方を再考しなければならぬ」と、メンバー全員が問題意識を強く持ったという。

無理のない運動で、市民一人ひとりが参加できるスポーツ企画を提案し、実現したい。その願いは、思いのほか早くに現実のものとなった。2年前、市民が講師役になって教えたり、学んだりすることができるよう出前講座「ばんこでまなびい」がスタートしたからだ。

このプログラムに参加した体育指導委員らは、ダーツやカーリング（カーリングの地上版）といったニュースポーツを紹介。すると体力に自信がない人でも十分楽しめると好評で、児童館やシニアサークルからの要請も多くなった。

予想外の喜びも届いた。平成13年、加藤さんが(社)全国体育指導委員連合から石狩市では初

めてとなる功労賞を授与されたのに続き、昨年は、石狩市体育指導委員協議会が同連合から団体部門で最高の優良団体として全国表彰された。スポンジテニスの普及やソフトボールの冬期屋外実施など、積極的な取り組みが評価されたのだ。

「実際のところ、指導員はみんながそれぞれ自分の仕事をもちながら活動しているので大変です。が、うちはチームワークの良さが自慢。これからも、市民、町内会、行政をつなぐパイプ役として勉強を重ね、メンバーの「熱意」を地域のスポーツ振興に生かしていきたいです」



▲花川北児童館で行われたダーツ講座の様子。後日、子どもたちからお礼の手紙が届き、指導委員一同、大感激。

編集後記

▼「イバラトミヨを発見!」
今月のいしかり博物誌でこの一文を読んだ浅学な私は最初、「イバラさんちのトミヨさんって誰?」と思ってしまう。写真を見ると魚だったので調べてみると、トゲオオ科の淡水魚と判明。こんな勘違いをしたのは私だけでしょっか?ああ、恥ずかしい。(S)

▼今年の農業まつりは、お天気は良かったものの、風が強く、少々肌寒い1日となりました。が!会場は本当に大勢の人でにぎわいました。個人的にも楽しみにしていた地場農産物即売では、まつりのスタートを告げる花火とともに人々がお自当てる野菜に殺到!その勢いに圧倒されつつ、しっかりDもカポチャやブロッコリーを購入しました。とっってもおいしかった!(D)

広報いしかり

■編集・発行／石狩市企画財政部市民の声を聴く課
〒061-3292 北海道石狩市花川北6条1丁目30番地2
Tel.0133-72-3153 Fax.0133-74-5581
【ホームページ】<http://www.city.ishikari.hokkaido.jp>
【携帯電話用HP】<http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/k/>
【Eメール】PR@city.ishikari.hokkaido.jp

■印刷・製本／株式会社アイワード
この広報紙は再生紙を使用しています。
印刷インキは、大豆を利用した植物油インキを使用しています。

